2009年3月31日

# 出張報告書

京都ＦＤ開発推進センター
深野　政之

日　程：2009年3月30日（月）～31日（火）
訪問先：広島大学高等教育研究開発センター（東広島市）
面談者：　山本眞一センター長・教授　／　福留東土准教授
参加者：深野・川面・瀧本（凸版印刷・30日のみ）

## 1．福留東土准教授からのヒアリング（3月30日）

・広島大学のセンターは、ほかの多くの大学のセンターと違って、日本の高等教育のナショナルセンターとしての役割を持っている。従って、センターとして自大学（広島大学）の教育に責任を負っているのではないので、学内の各部局から助言を求められれば各センター教員が対応している程度である。
・前任校の一橋大学のセンターでは、一橋大学の共通教育の部分での授業評価や、ＦＤ活動等の実務を担当していた。専門職大学院が求められている、教育方法等を話し合うプロジェクトがあったが、専門領域に入るとセンターでは対応できない例が多かった。
・多くの課題をすべてセンターで担当するのは不可能なので、各部局の協力を得ることを重視していた。
・問題のある教員、学生からの評価の低い教員について、教員自身が変わろうとしない限り変わらないので、教員集団の中で教育改善の雰囲気を作る必要があるのではないか。

数年前には「学長サロン」（学長と教員の懇談会）のような取り組みが紹介されていたが、教員間で何らかのコミュニティーを作ることが、全体のかさ上げにつながるとの示唆があった。また、なるべく小さい教員組織単位（学科や課程、専攻等）での取り組みも重要であるとの助言を得た。

## 2．山本眞一センター長との面談（3月31日）

山本先生が3月に訪問したドイツの大学、研究所の話題を中心に、日本の大学教育全般に関して、ＦＤに留まらず、大学職員の役割、大学院教育のあり方等、幅広い分野について、山本先生自身の経験も交えて、お話をいただいた。

山本先生には、修士課程1年次（2001年度）に「高等教育政策論」の授業を受けた経緯があり、今回は挨拶も兼ねて面談をお願いした。上述以外にも、日本の高等教育政策の推移、広島大学のセンターの目標等を詳しくお話しいただき、非常に有意義な出張であった

以上